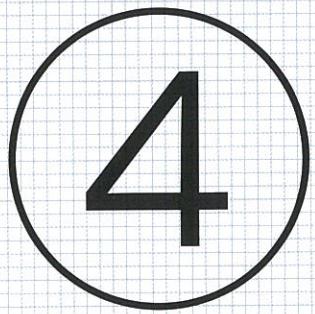
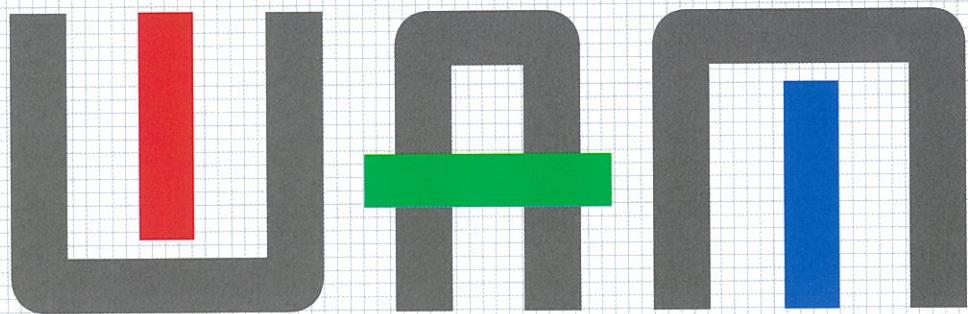


# 明日の福祉と医療を創るワム



2014

●特集

## 平成26年度診療報酬改定のポイント

●福祉・医療最前線

大分県大分市・社会福祉法人暁雲福祉会

●WAMレポート

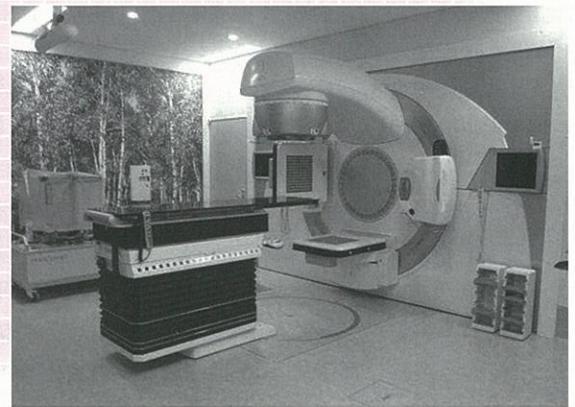
平成26年度 独立行政法人福祉医療機構事業予算の概要



独立行政法人福祉医療機構



◆処置ベッド3床、ホールディング  
ベッド14床を備えたER



放射線治療室▶

断らない救急を実現するためには、広いERと充実した設備だけでなく、関係各スタッフや運用システム等のソフト面からの充実が必要になるためER態勢を一新し、北米型ERとしました。

まず救急医が初療し、必要に応じ各科専門医に引き継ぎ、経過観察が必要な患者や入院の必要な患者が入院ベッド満床時においても、ER内でホールディングベッド最大14床を運用可能とすることにより、不安な帰宅や他院への夜間転院等を極力減らすことができるようになりました。

継続的な「断らない救急」の実践により、年間約1万台の救急車受け入れを行っています。

また、移転開院に伴い許可ベッド数が203床から326床まで増床したことにより、患者数、医業収益ともども増加していますが、何よりも高度医療技術の提供を行える先進的な施設・医療設備が整つたことと、そして「断らない救急」のモットーを実現するための運用システムの充実が図られ、地域医療中核病院としての評価も高まり、患者数、医業収益等は伸びを示しています。

### 施設整備による病院機能の向上

1ビルを2基(500kVA×2)用意しました。フル発電で3日間の連続使用が可能です。エレベーターは6基設置。高層病院のため動線として重視しており、うち2基は免震構造の効果で震度7程度の揺れにも対応可能です。

断らない救急を実現するためには、広いERと充実した設備だけでなく、関係各スタッフや運用システム等のソフト面からの充実が必要になるためER態勢を一新し、北米型ERとしました。

まず救急医が初療し、必要に応じ各科専門医に引き継ぎ、経過観察が必要な患者や入院の必要な患者が入院ベッド満床時においても、ER内でホールディングベッド最大14床を運用可能とすることにより、不安な帰宅や他院への夜間転院等を極力減らすことができるようになりました。

継続的な「断らない救急」の実践により、年間約1万台の救急車受け入れを行っています。

新築移転により救急受け入れ体制強化「断らない救急」  
社会医療法人財団石心会 川崎幸病院

川崎幸病院が属する川崎南部医療圏(川崎市中原区、幸区、川崎区)は病床過剰地域ですが、川崎市では今後約15年間にわたって人口は着実に増加し、平成37年には約150万人となることが見込まれています。同施設は「地域医療の要である救急医療とそれを支える高度医療を中心とした超急性期病院を体現できる病院」づくりを行い、「断らない救急」を実践し、すでに年間約1万台の救急車受入を達成しています。ここでは、平成24年に機構の融資を利用して実施した新築移転事業を紹介します。

## 福祉医療機関ご利用者の声

福祉医療機関の融資や助成などを利用されたご利用者の取り組みを紹介します



### 医療貸付事業

## 新築移転により救急受け入れ体制強化「断らない救急」

社会医療法人財団石心会 川崎幸病院



川崎幸病院が属する川崎南部医療圏(川崎市中原区、幸区、川崎区)は病床過剰地域ですが、川崎市では今後約15年間にわたって人口は着実に増加し、平成37年には約150万人となることが見込まれています。

同施設は「地域医療の要である救急医療とそれを支える高度医療を中心とした超急性期病院を体現できる病院」づくりを行い、「断らない救急」を実践し、すでに年間約1万台の救急車受入を達成しています。

ここでは、平成24年に機構の融資を利用して実施した新築移転事業を紹介します。

事業計画				
施設名	敷地面積	新旧比	延床面積	新旧比
旧:川崎幸病院	2,602.30m <sup>2</sup>	-	6,317.70m <sup>2</sup>	-
新:川崎幸病院	3,682.33m <sup>2</sup>	1.42倍	21,267.69m <sup>2</sup>	約3.4倍

### 建築計画

#### 地下1階付地上11階建(免震構造)

施設名	敷地面積	新旧比	延床面積	新旧比
旧:川崎幸病院	2,602.30m <sup>2</sup>	-	6,317.70m <sup>2</sup>	-
新:川崎幸病院	3,682.33m <sup>2</sup>	1.42倍	21,267.69m <sup>2</sup>	約3.4倍

②増加する手術需要に対応できる高機能手術室を整備	③救急を支える各医療センターの設置
新築移転時に放射線治療センターを開設。患者に対し、外因手術、放射線治療、化学療法を組みあわせた総合的な治療を提供できるようにしました。	救急を支える専門医療として心臓病センター、脳血管センター、川崎大動脈センター、消化器病センター、泌尿器科センター、リーザー治療センターを開設しました。

④がん治療に総合的に対応する施設整備
新築移転時に放射線治療センターを開設。患者に対し、外因手術、放射線治療、化学療法を組みあわせた総合的な治療を提供できるようにしました。

⑤その他の施設
周辺地域の地盤が軟らかいため、約40mの杭を100本以上打ち込み、最新の免震装置(最大振幅65cmを想定)を地階に設置しました。電源については、津波や浸水を考慮して最上階に設置し、リスク回避のため発電用タ

施設の概要
〒212-0014 神奈川県川崎市幸区大宮町31番27 TEL 044-544-4611 FAX 044-549-4858 URL: <a href="http://saiwaihp.jp/">http://saiwaihp.jp/</a> ●設立:昭和48年(1973年) ●理事長:石井暁喜 ●院長:笹栗志郎 ●病床数:一般病床326床うちICU24床(一般ICU8床、ACU①8床、CCU8床)、SCU9床、HCU16床(うちACU②8床)

### 「断らない救急」を実現

社会医療法人財団石心会理事長 石井暁喜氏

川崎幸病院の移転開院は、土地・建物での総事業費100億円という大型投資プロジェクトとなりました。その資金調達について、機構が主導的に担っていただいたことで、他の民間金融機関との協調融資を円滑に組成することができました。

当院が「断らない救急」をスローガンに超急性期の救急病院であることは内外に認知されており、まずは救急患者を受け、急性期治療をした後、次の連携病院につなげていくという連携システムを率先して行っています。

今後は、新病院開院前および開院後に集中的に採用した職員のパフォーマンスアップが必要とされており、とくに職員数においてかなりのウェイトを占める看護師の育成に注力したいと考えています。

